

第8回 長南町過疎対策検討委員会議事録（要旨）

平成25年5月10日（金）

庁舎分館2階第一会議室

18時30分から

出席者　過疎対策検討委員会委員8名 アドバイザー1名

傍聴者2名

事務局 常泉 相澤

会議資料

空き家部会：空き家対策の検討

市部会：「市」による交流人口の拡大と町の活性化

情報発信部会：情報発信について

1. 委員長あいさつ

3部会に分かれて初めての検討会になります。各部会で検討された内容について説明していただき皆さんのお意見をいただきたいと考えています。よろしくお願いします。

2. 検討・協議の内容

委員長：まず、空き家部会から説明をお願いします。

T委員：基本的な考え方は、初期は町がある程度資金と事務を行い、軌道に乗った時点で民間が主体的に行うこととし、町は信用と指導を中心とする体制とする。

政策名は、「空き家を利用した長南町への定住促進」。

課題

- ①「空き家情報バンク制度」でのミスマッチの発生原因の解消
- ②空き家バンク情報制度の情報発信の充実
- ③町による戸建て住宅や住宅以外の用途への活用

解決策

①について

- ・町に（仮）定住促進推進係を設置し、主体となって空き家物件の相談から入居手続きまで支援する。
- ・後片付け費用等の補助制度の創設
- ・町が宅建業者に物件仲介を委託するサブリース方式を導入

②について

- ・物件情報の充実（現書式に設備や建物の改修等の必要性の有無、主要施設への距離等を追加）

- ・生活情報や周辺環境及び移住後の生活がイメージできる移住者体験談の発信
- ・活用できる移住定住支援策の発信
- ・町の魅力や観光の発信

③について

国の補助金を活用して

- ・空き家を借りあげて若夫婦向けの戸建ての町営住宅とする。
- ・町の中心市街地や主要道路沿線に空き家を活用したコミュニティビジネス施設（レストラン、特産物販売所等）や子育て支援施設等を整備する。

④その他

- ・町おこしや町の活性化を図るために、空き家を利用してアートイベントや若者に店舗、事務所として利用してもらう。
- ・宅建業者による空き家の賃貸売却も同時に実施する。
- ・「空き家活用・定着促進相談員」（仮称）制度の創設をする。

今後のまちづくりでは、アトリエや作品発表の場を求める若い伝統工芸職人や農業後継者に、また地理的好条件をいかし、ホームオフィスとして空き家を優先して賃貸、売却することも検討する必要がある。

委員長：空き家部会の考え方について、皆さんからの意見をいただきたい。

I 委員：国の補助金の関係で、新築を対象とした補助金はありませんか。

T 委員：調査し、報告します。

I：この提案の要点は、町に定住促進の組織を作った方がいいということが一つの重要な提案となっている。いすみ市の例では、組織を作つて2、3年経つが、問題点が2つある。1つは、登録数が増ないこと。また、売買の関係で難しいのは、境界画定ができていないこと。そういう物件を行政が介入して、お勧めできない状態である。地籍調査等を行わないと、流動化しません。

委員長：以上で、空き家部会については終了し、続いて「市」部会にお願いします。

I 委員：町を活性化するためには、町の情報を外に向けて発信することが必要。そのために、住民が全員参加するような「市」を開催するべき。よそから人を呼んで市をやつたとしても、住民は「誰かがやっている。自分には関

係ない」という意識を持つと思う。まず自分たちでスタートして、それから拡大していくことを考えている。

政策名は、「市」による交流人口の拡大と町の活性化

課題

- ① 主催者の決定と町の対応
- ② 出展者の募集と開催の発信方法
- ③ 開催場所と開催日の決定

解決策

①について

- ・主催者として、町と商工会及び各種組合等の参加による「市開催実行委員会及び実行事務局」を組織する。
- ・当面は町が主体となり市を開催し、軌道に乗った時点で町が共催者になるのが望ましい。

②について

- ・実行委員会と町等で、インターネット、チラシなどで出店者を募集する。市のコンセプトに従い出店者を選定する。
- ・開催についての情報発信も、実行委員会と町等により、インターネット、チラシ、折り込み広告、アクセス道路や主要道路にのぼり旗、看板などを設置。
- ・軌道に乗った時点で、隣接市町村等からの出店も検討する。

③について

- ・開催場所は、県道147号線（長生農協長南支所前交差点から、小湊鉄道長南営業所前交差点間の適正な区間）を歩行者天国とした市街地沿道。
- ・開催の日時は、日曜日の午前10時から午後3時ころまで。月1回定期的に行う。

④その他

- ・お祭りなどのイベントとコラボレーションし、集客の拡大を図る。
- ・伝統料理などの実演・試食も行い町の文化の普及に努める。
- ・市の開催時に空き家を活用し、アートイベント、若者に店舗として利用してもらう。

委員長：「市」部会の案について、意見のある方はお願いします。

N委員：町の（フェスティバル）とは、どのような違いがありますか。

I委員：（フェスティバルは町と）つながりがある方が参加している。（町とは）つながりのない方がかなりいる。（市は）そういう人も全部巻き込んでいくという意味で開催するもの。

N委員：それは町が主導することによって、そういう人たちも集まつてくるということ？

I委員：町が中心にはいてくれるが、その周辺で市を盛り上げるのは、市をやろうというグループ、サポーターが動かざるを得ない。

N委員：もっと出たいという気持ちにさせるような何かがあった方がよいのでは。もう少し、魅力をつくっていかないと。

I委員：町を活性化させるためには、皆が一肌脱ぐという気持ちで。

N委員：そんなにうまくいくとは思えないが。

I委員：出れば自分のプラスになる部分もある。

I：まさに、団体の方々のご意見を聞いてみるのがいい。きっと、彼等も考えたことがあると思う。

I委員：機会があったら聞いてみます。

S委員：団体云々というよりも、個人が気軽に参加できるのが市だと思っている。今回も、団体よりも個人がメインでやるのが「市」。フェスティバルは団体。売れる、売れないは別として市に参加したいと思っている個人がやつていくのが本筋ではないかと思っていた。

I委員：それは継続ができない。（個人と団体）両方だと思う。その方が続けやすいと思う。

S委員：継続性では、個人での参加となると、飽きたからもうやらないということにもなる。ただ、あまり敷居が高すぎると、参加したい気持ちはあっても、縛られてしまって自由に参加できない面がある。個人個人を大事にしていったほうが、地元に密着した長南町の色を出せるのではないか。

委員長：色々と意見がありましたが、要は動機付けだと思う。西田さん、どうお考えですか。

N委員：やることに対するはすごくいいことだと思う。ただ、失敗した例をたくさん見ている。そんなに簡単にできることではないと思う。一回失敗すると、なかなか次につながらない。

委員長：解決策に、「市のコンセプト」となっているが、これが一つのキーポイントとなっている。

I：主体として団体も含めて、市をやろうということが同意されれば、次に進めるので、さらにそこを考えていく。(団体などに) 何も話していない今の段階で、自分たちがコンセプトを決めて持っていく形にするのか、それとも考え方を聞き、話し合いながら次に進むのかの差だと思う。ここでは、コンセプトの例を出しておけばいいと思う。

委員長：あらかじめコンセプトを何点か決めておくか、それともコンセプトなしで委員会をつくって決めていくか。

S委員：コンセプトはいくつか決めておくと入りやすいと思う。いくつか決めておいて、「この他にも何かれば」という形で吸い上げていったらしいと思う。

委員長：開催場所は長柄大多喜線の街中で、車を止めてやるのがいいとは思うが、実現性はありますか。

町：かなり厳しいと思います。

T委員：実際に市を開催するようになると、テキヤさんの中にも考えておかないと。町がやって、資金が暴力団に流れていると、場所を提供するのもいかがなものかということになる。開催するにあたって、何かの歯止めというか、町の人の紹介があるというような、仕組み、仕掛けを考えておいた方が良いのではないか。

I：道路の問題は、本当にスペースがあるのかを調べる必要がある。

I委員：日曜日の数時間、車を通さないといったことはできると思う。どうしても通りたい人は、小学校わきの道路を通ってもらうような方法で。あと迂回路の問題。花火（大会）の時に規制をかけているが。

委員長：花火の時は一方通行ですよね。

町：一方通行と、通行止めです。通行止めは、迂回路があるという前提で止めています。

I委員：展示をするのは、空き家を借りるとか。市に来た人の車は入れない

で、例えば役場の駐車場に停めて歩いて行く。

I : 次の段階として、ある程度、まちなかのイメージ図を作ると分かりやすいと思う。こういう形ならできるというのが分かるので。

M委員：その方がイメージをつかみやすいと思う。

委員長：開催場所も含めて、実現できるような案を出したいと思いますので、様々な協議が必要になってくると考えられます。

T委員：本当は街なかでやりたいけど、はじめは側道でやってみるとか、谷津のほうでやってみるとか。それも副案で考えて、両案併記とすれば実現性も上がるのではないか。街なかで押し切るのではなく。

S委員：できるだけ圏央道に近いところが理想だと思う。

M委員：茂原長南インターに降りてもらう理由として、インターに近いところにちょっとしたものがあって、せっかくここに降りたのだからこのまま長南の商店街に行ってみるというような、まず1か所小さめのものがあって、同じ日に必ず商店街に行ってもらうようにしたらいいのでは。

委員長：ほかにございますか。無ければ、コンセプトの決定をどのようにするか、また、開催場所についてご検討ねがいます。

委員長：続いて情報発信部会にお願いします。

M委員

情報発信：既に町に住んでいる人向けのものと、住んでいない人向けのものの二つがある。この委員会の目的が定住者を増やすことであるので、対外的にアピールすることを主に考えながらも、それは町の人たちにとっても連携を深め、住みやすいまちづくりにつながっていく。

○目的：交流人口の増加を促すものだが、ひいては移住・定住につなげていくもの。

○対象：子育て世代、若者、芸術家（ものづくり）を意識したらよいのではないか。

○町の特長（良いところ）をアピールする。（長南町での）ライフスタイルのイメージがわくような提案をする。

この中に、定住するために必要な情報（医・食・職・住・文・人）に関する

る情報を入れていく。

情報発信の手段：町のHP、フェイスブック、ブログ、広報紙、ミニ新聞
連携：町内の様々な団体がそれぞれ情報発信しているが、その情報を集めて再編集していくことが必要

具体的には、フェイスブックの立ち上げを提案する。役割としては、一方的な情報発信ではなく、相手の反応も受け取れ、まちづくりの情報を集める手段にもなりうる。

A委員：補足説明

情報を発信するところに情報も集まってくる。過疎対策委員会（チームちよな丸）のフェイスブックで双方向のやり取りが可能となる。できる人ができる範囲で情報を発信していくことで、情報の輪が広がっていくのではないか。

B委員：過疎対策検討委員会（ち一むちよな丸）に関する広報チラシについて説明。

委員長：今の説明について、質問等ありますか。

T委員：フェイスブックを使い勝手がいいから使ってみようということですが、アカウントが必要になる。アカウントがないと入れないとということは、行政としてのツールになじまない。

I：市町村でフェイスブックを採用しているところがあると聞いている。その状況を確認したらどうか。情報発信を新しく採用した職員がやるのか、他の組織がやるのかといった、誰が主体でやるかを明確にしていくべき。

委員長：今回の課題等について、各部会で協議いただきたいと思います。次回は5月31日（金）午後6時30分からこの場所（第一会議室）で、検討をお願いします。

午後8時30分閉会